

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909		
法人名	中央ケアサービス株式会社		
事業所名	なでしこ大紀		
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4		
自己評価作成日	平成25年2月12日	評価結果市町提出日	平成25年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JivovsyoCd=2472800909-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 3 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念通りのケアの追求と、地域になくてはならない存在になることを目指している。特に今年は人材育成に力を入れ、管理者、職員それぞれのレベルアップを図りたい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔とやさしい声の響きこそ最大の良薬、利用者の苦しみを除き楽しみを与えることこそがケアの原点、心と目は常に利用者に、利用者のために職員の団結、常に現状を乗り越える知恵の発揮を」を理念とし、「誰が訪問されても素晴らしいホームでありたい」を念頭に家族的で温かい場所作りを実践している。また、社長は職員研修を多く取り入れ資質の向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に提示している。 毎日唱和、確認し合っている。 管理者も含め、特に笑顔を大切に、互いにチェックし合っている。	ホームの5つの理念を毎日唱和している。また、月1回の全体会議で理念を理解し、実践されているか話し合い、利用者の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催イベントへの出品や参加、詩吟、舞踏のボランティアの慰問、地域での買い物など、変わらぬ点に加え、入居者に買い物気分を味わっていただけるように、地域貢献を兼ねて移動販売に来てもらえるよう交渉し、実施。好評である。	利用者の手芸などの作品を地域の文化展に出品したり、ホームの夏祭りに地域の方を招待し、ヨーヨー釣りやフリーマーケットなどで楽しんでもらったり、中学生の体験学習の受け入れも行っている。自治会には加入していないが、地域の行事の情報を把握し、積極的に参加・協力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隔月の運営会議に出席をお願いしている代表の方への周知、年々参加人数の増えている夏祭り等のイベントでのパンフレットの配布、地元中学校の職場体験の積極的受入れなど、機会ごとに努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で必ず開催している。 出席率も常に高く、ご意見を率直にお話しいただけている。ここを変えてほしい、などの具体的な要望は少ないが、あれば即時の対応をしている。	2か月に1回開催されており、会議ではホームの現状報告を行い、意見・質問をいただいたりしている。認知症の防止についての問いには、地域包括支援センターの職員が説明するなど意見交換がされ、ホームの運営や利用者の支援につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただき、意見を交わしている。 研修会などイベントでの相互連絡、相互参加は当然のこととして受け入れていただいている。	運営推進会議での意見交換や、町主催の認知症高齢者チーム会議への参加、書類提出時に情報交換をするなど交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関側のドアについて、時間帯、状況によっては施錠していたが、それを廃し、日中の常時開放を実現した。	管理者及び全職員が玄関等の施錠を含め、身体拘束の内容とその弊害を認識し、安全で自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道のなされた虐待等の記事を一定期間掲示する、引き継ぎや会議で事例として紹介するなどの対応を行っている。項目6の施錠撤廃のように、より良いケアを常に模索できている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役職者は学習会等に積極的に参加できており、的確なアドバイスができるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取っており、事前の丁寧な説明ができている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙による定期的な家族への近況報告と要望の確認、家族代表の運営会議参加と苦情窓口係のお願い、意見用紙を玄関で記入できるよう配慮するなど、さまざまな機会を作っており、また、即時対応を行えるよう常に心がけている。	3か月に1回職員は家族にお便りを出したり、利用料の請求書送付の時に意見・要望用紙を同封したり、家族の訪問時にケアマネが聴いたり、社長自ら家庭訪問をし意見要望を出してもらえるように努めている。利用者については、日頃の会話や所作などで意見要望を聴き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、その後の職員のみでの話し合いや、連絡ノート、その都度の要望票、年一回の感想文、自己評価への全員参加などの機会に加え、互いに遠慮なく、直接言い合える環境作りができている。	全体会議や職員だけの会議での意見など、利用者の状況や実情を理解している現場職員の意見を聴いたり、年に1回感想文の提出、社長との個人面談も行っている。自己評価も全職員がかかわり運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの出勤日、時間の要望については全て対応し、より良い職場への意識を共有して、要望なども遠慮なく言い合い、改善していく環境ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修会の周知と積極的な参加を呼び掛け、参加者は会議でその内容を報告している。 また、施設として、人材育成を今年のテーマに掲げており、効果的な勉強会などを企画中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務長が中心となってグループホーム協議会や県の医療関係全体の交流の会に参加しており、会合やセミナー開催時は、休みの職員に声を掛けるなど配慮している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族による見学を重視し、納得いくまで話合っていたりできるように要請している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な時間を割き、不安要素を全て取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、施設CM、担当者らを含め、本人を中心としたグループでの、時間をかけた話し合いができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに役割を持てるよう配慮しているが、最近のセミナーを受け、配慮が過剰になっている部分がないか再点検を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者からの定期的な手紙の送付、イベントへのお誘いや、面会時の近況報告など、出来る限りの機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いが気軽に来訪できるような態勢づくりや声かけ、行きつけの美容院の利用、墓参り、見舞い、地域イベントへの参加など、出来る限りの支援を継続して行っている。	家族とのかかわり、行きつけの美容院、桜の花見など利用者一人ひとりの人や場所の関係を把握し、馴染みの継続が切れないように、また、入居後の地域の方々との馴染み作りの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際やレク、日中それぞれに、利用者の関係性を考慮に入れた、良い距離感が保てるような支援ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退去されるケースがほとんどであるが、可能な限りお見舞いして様子を伺い、それを会議で報告し合うなど、フォローや支援できる態勢を取れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に起こさないなど、本人の要望に沿った支援を実施できている。 また、生活リズムの把握にセンター方式の要素を取り入れ、必要に応じた支援の改善もできている。	アセスメントや家族の意見、利用者との日頃の会話や行動から小さなサインも見逃さないようにし、要望や意向の把握に努め、職員が情報を共有し、利用者一人ひとりに副った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	しっかりと記録をもとに、日常の変化に対応しながら、本人らしい最良のケアを模索するという意識を共有できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付き帳の記入に加え、朝夕の申し送りでの注意喚起、さらにその内容を業務日誌の特記事項欄に記録し職員への周知徹底を図るなど、観察、記録、情報の共有を実行できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況の変化に応じた会議や話し合いの開催、その内容のプランへの反映など、きちんとした手順を踏み、作成できている。	面会時に現状を報告し、利用者・家族の意向を聴き、担当職員が3か月ごとにモニタリングを行っている。必要があれば担当職員・看護師・計画担当者で話し合い、現状に副った介護計画を作成している。職員には全体会議などで詳しく説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	突然の変化変更にも、詳細な記録と伝達による即時対応と情報の共有ができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の要望に全て対応するなど、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売の来訪の手配などを実施し、地域とのより深い結びつきを模索できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週での往診、突発時の指示など、かかりつけ医との連携がしっかりと取れている。入居者の意思による他の医院への受診希望にも、全て対応することが出来ている。	本人・家族の意向に副い、かかりつけ医（現在2名）と協力医を利用している。協力医による2週間ごとの往診を受けるなど、適切な医療を受けられる支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	休日でも連携の取れる態勢を取れている。また、会議で必ず時間を割いて話をしてもらうなど、緊密な連携ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーでの情報共有、管理者、役職者による休日を利用したお見舞いでの状況把握など、以前からの努力に加え、県全体での医療、介護機関の交流会に参加するなど、より有効な関係づくりへの模索、行動ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分な時間を割いて説明を実施し、本人、家族の意向もしっかりと把握できている。かかりつけ医にもきちんと報告しており、チームでの支援が実現できている。	入居するときに、ホームで出来ることを本人・家族に説明を行い、家族の意向も把握し、都度、家族・協力医等と連携を図りながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練、人工呼吸、AED訓練への参加、マニュアル作成ができおり、素早い対応が実現できている。 重大な病気を発見できた成果もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、協力体制ともに、実際の避難にきちんと活かされた。また、その際に職員による応援態勢が柔軟に整えられるなど、高度な対応ができている。	年2回（春・秋）に避難訓練を実施している。内容は、担架を使った救出、消火器の取り扱いなどの訓練を実施している。地域の防災委員会にも所属し地域との協力体制もとられている。食料などの備蓄もされており、地域の避難所として利用できる用意もある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念通り、常に笑顔で、目を合わせて優しく声かけを行い、家庭的な雰囲気を保ちつつ、ノックを忘れないなどの常識を持つことができている。 また、過度の子供扱いなども無く、一人の人間に対する尊敬と尊重の念を持つことができている。	どんな些細なことであっても場所を選んで会話をするなど、利用者には礼儀を重んじて、プライバシーの確保と誇りを守るために社長はじめ全職員は常に気を配り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が、家庭的な、遠慮なく頼んでもらえる雰囲気づくりから意識しており、押しつけのない促しの声かけが実践できている。講習会参加者の報告から、行き過ぎた支援は病状の悪化を招く、との認識を改めて持とう、と会議で確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた起床就寝、入浴や、余暇活動への意向を伺う声かけなど、その人らしい暮らしのための支援ができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容の免許を持つ職員による散髪、整髪、行きつけの美容院の利用など、支援している。 服については、本人の意思に任せたほつれや汚れの確認が中心であり、称賛の声かけを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限りの下ごしらえやお盆拭きなどの手伝いの支援、席順の配慮、食事残量のチェックによる献立の工夫など、これまで通りの支援に加え、施設の畑を再開し、その世話や収穫した野菜をお出しするなど、工夫している。	献立は管理栄養士にも相談し、3人の調理担当者が交代で、それぞれの味を工夫しながら食事が作られ楽しく食事が出来るように支援している。利用者の中にはお盆拭きなど仲良く楽しく行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については基本的に本人の食欲に任せている。 記録を丁寧に、病状、体調、習慣、現状に沿った支援を行うことができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限りの自立を促しつつ、出来ない部分を支援する形を取っており、本人の意思で拒否される場合などを除いて、全員への声かけ、ケアができている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基にして、早め早めの、自信を持っていただけるような声かけを心がけている。 ポータブルの設置など、個々の状況に応じた支援ができています。	排泄表を活用しながら、日頃の動作を観察し、可能な限りの自立に向けた支援を行っている。夜間対策としてポータブルトイレが用意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の声かけ、水分補給、野菜を多くとれるような献立の工夫を継続して行っている。 緻密な記録を基に、病状に応じて対応ができています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理のない、時間、順番などに柔軟に対応のできる、本人の希望に沿った入浴支援ができています。	浴室は一般用と機械浴室がある。利用時間は10時から14時となっている。職員は利用者に無理強いすることなく、一人ひとりの意向を第一にくつろいだ気分で入浴できる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の掃除、整頓、空気の入替え、記録を基に個々の好みに合った状況の把握、見守りなどの継続した支援ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用の説明に目を通し、変化の観察、医師への相談など、変わらず支援ができています。 薬の効能表の作成など、新しい工夫も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に状況を把握し、ドライブ、買い物などの気分転換、手芸や絵画、書を額装して飾るなどの支援ができています。また、新しい試みとして、自己主張や意欲の少ない方のために、足湯をのんびり楽しめるように工夫するなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外泊、外食、買い物、墓参り、ドライブ、イベント参加など、変わらず支援、努力ができています。	暖かい日はホーム周辺の散歩、春になればホーム前の桜の花見、カラオケ喫茶や隣町の港市の見学や外食に出かけるなどの支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルのないように個別に支援ができています。移動販売所の施設訪問などの新しい試みも、利用者が生き生きとした表情を見せており、成功している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話を借りることができたり、自室でゆっくりお話しできるよう子機をお渡ししているなど、変わらず配慮、支援ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や空気の入れ替え、季節感のある花や観葉植物の飾りつけなどは変わらず実施されている。展示される入居者の作品も増えており、また、カラオケ、テレビの音量などにも気を配ることができている。	居間・食堂・作業場があり、広々として明るく、壁には行事の写真や利用者の手芸作品が多く展示され、テーブルには花も飾られ、利用者それぞれが楽しく自由に過せる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	変わらぬ設備、支援に加え、運動器具や足湯の設備が増えており、より良い支援ができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで通りの支援、工夫に加え、家族面会時にデジカメで写真を撮り、部屋に飾るなど、喜んでいただける工夫ができています。	ベッド、棚、小テーブル以外は利用者の好みの物が自由に持ち込まれ、本人が落ち着いて居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドやマットの選択、利用しやすさへの配慮や、ポータブルトイレの設置、部屋の扉の名札の工夫など、みんなで知恵を出し合いながら、可能な限りの配慮ができています。		